

○各種研究協議会報告

第43回全国公立学校事務長会研究協議会並びに総会報告

- 1 期日 令和元年8月1日(木)・2日(金)
- 2 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
- 3 次第

【第1日目】令和元年8月1日(木)

- (1) 開会式・功労者表彰
- (2) 文部科学省講話
- (3) 研究協議

【第2日目】令和元年8月2日(金)

- (1) 総会
- (2) 本部報告
- (3) 研究協議
- (4) 講演
- (5) 閉会式

4 概要報告

【第1日目】

- (1) 開会式・表彰式

表彰者は全国で56名。本道からは札幌工業高等学校の阿部雅一氏と札幌東商業高等学校の佐藤哲也氏が表彰者に選定されています(お二人とも表彰式は欠席されました)。

阿部事務長、佐藤事務長、おつかれさまでした！

- (2) 文部科学省講話

「教育行政における課題と展望」

講師：文部科学省初等中等教育局財務課校務調整係長 中 広行氏

小学校事務職員から文部官僚へ

講師の中 広行さんは3月まで愛知県の小学校で事務職員をされていました。文科省の看板を一身に背負い、パワーポイントをフルに活用しながらの講話でした。

- 1 学校における働き方改革について
- 2 教育の情報化の推進について
- 3 新学習指導要領について
- 4 いじめ対策・不登校支援・児童虐待対応について
- 5 特別支援教育の推進について
- 6 地域と学校の連携・協働について
- 7 マイナンバーカードの取得に向けた取組について

8 新しい時代の初等中等教育の在り方について（中央教育審議会諮問）

9 制度改正と事務職員に求められる役割

個人的には文科省に行くことになった経緯を聞いてみたいところでした。

(3) 研究協議

研究協議Ⅰ（高校）

「新しい時代に求められる教育行政職員の学校運営参画能力の育成に係る方策を探る～事務をつかさどる時代に向けて～」

発表者：兵庫県立学校事務長会 小枝 裕之氏 高尾 かほり氏 小嶺 かずみ氏

大松 正江氏 尾崎 啓一氏 安田 砂登美氏 樽井 清浩氏

H27 から H31 までの 5 年計画で行われている次世代職員育成研修概要と H29 と H30 に実施した研修内容の紹介が主な内容です。

H29 の研修は「次世代育成研修」略して「育研」

対象者は道立学校では事務主任に相当する課長補佐・主査（県立学校の事務職員です）「基調講演」と「実践研修」の二本立てで行われた研修は、大きく変わろうとしている職場環境への対応力と学校運営にかかわる能力の育成が目的。

H30 の研修は「新しい時代のマネジメント研修」略して「マネ研」

「ワークショップ」と「講義」で行われた研修は Society5.0 時代の到来を踏まえたタイムマネジメントを切り口とした働き方改革が目的。国を挙げて「働き過ぎ」を心配してもらえる先生たちと違い、事務職員は自分で自分の働き方改革を考えなければならないのだと実感しました。

発表してくださったのは高尾事務長と小嶺事務長のお二人。これがまたなんと型破りな発表技法で…。高尾事務長はいきなり「前半は〇〇高校の黒木瞳…」でスタート。小嶺事務長は研修講師さながらでマイク片手にステージ中央に出てきて進行。「さっきの黒木瞳は笑うところですから、みなさん！」**さすが関西のおばちゃん女性事務長！**とはいえ、彼女たちも芸人さんではないので、おそらく相当勉強と訓練を繰り返したのではないかと推察されます。パワフルな研究協議は、ぜひ北海道にもお呼びしていろいろな方に見ていただきたいと思いました。

【第2日目】

(1) 総会 活動の記録・決算・予算・活動計画・役員改選

(2) 本部報告 各事務長会の活動と課題について報告

(3) 研究協議

「学校活性化の取り組みと学校経営参画～民間企業との連携と AR を導入した新たな広報～」

発表者：福岡県立嘉穂総合高等学校 事務長 白濱 克彦氏

H20 に普通高校・工業高校・農商家政高校の統合により総合学科としてスタートしたもの、利便性の悪い地域へ移転したため H24 から定員割れが続く同高での取り組み。

・カタカナ学科名をシンプルな学科名に戻す→教育内容のわかりやすさ

・ダチョウの購入→卵を使った商品の開発

- ・イオンと連携した生徒のファッションショー→メディアへの露出
- ・ドローンの授業への導入→資格取得などによる生徒のやる気
- ・学校案内に AR（拡張現実）を導入→文字や写真だけでなく動画と音でアピール

これがすべて事務長さんのお仕事だということにまずびっくりでした。AR は私も前任校で大規模改造工事業者の安全講習に立ち会わせてもらう機会があり、主に工事現場の事故の AR をみせてもらいましたが、それを学校の仕事に直接結びつけて考えたことはありませんでした。最後に**会場で小型のドローンを飛ばすサービス付き**で、本当に「やらされている」のではなく「楽しんでいる」感じがびびり伝わってくる発表でした。

（４）講演

「学校事故と安全管理」

講師：日本スクールコンプライアンス学会会長 坂田 仰氏

主に学校現場で訴訟に発展したケースについての解説でした。

- ・エアコンの室外機の音がうるさい
- ・部活中に落雷を受けて重傷
- ・特別支援の生徒が実習先から抜け出し列車事故で死亡
- ・卒業生が無断で校地に立ち入り鉄棒を使用中に支柱が折れて重傷

いずれも一部で学校の責任が認められたケースです。学校はすでに地域住民にとって公共施設ではなく迷惑施設。親は状況はどうであれ子どもが死んだ、重傷を負ったという結果を重視。訴訟が増えている背景にはこんな地域住民や保護者の心理変化があるようです。

「あ、僕は文科の対極にいますから」

この一言で始まった講演はこう続きます。「新学習指導要領では学校の ICT 環境整備と ICT を活用した学習活動の充実をうたってますが、僕はパワーポイント一切使いません。昔ながらのスタイルで講演します。それと僕は、主体的で対話的な深い学習も大嫌いなんで、90 分間一方的にしゃべり続けますから、そのつもりで聞いてください」

主体的で対話的ではないかもしれませんが、私は深い学習ができたと思っています。びしょっと一本筋が通ってれば、どんなスタイルでも人を魅了することができるのだと思いました。

ちなみに先生、教授をしている大学でアクティブラーニングの授業計画を出せと言われ「従来型の講義を行う予定」と書いて事務に呼び出され、現在バトル中だとか。

漫才師なみのユーモアと舞台度胸でしっかり聴衆（？）の目と耳を引きつけた兵庫県の事務長さん、AR やドローンを駆使してこれからの事務長のヒントをくれた福岡県の事務長さん、昔ながらの一方的なしゃべりでも十分興味深くて心に残る講演をしてくれた講師の先生。今回は北海道にはないタイプの様々な「舞台」を見せていただきました。

貴重な機会を与えていただいたことに感謝し、今後の「私」に生かしたいと思います。